

2019 年度全国審判長会議報告書

開催日時： 2020 年 2 月 23 日(日) 9 時 50 分開始、16 時 00 分終了

日 程： 別紙参照

説明資料： 別紙参照

会 場： 芝学園中学校・高等学校 会議室

出席者： ブロック長、都道府県審判長、各全国大会審判担当者（社会人連盟、国体、インカレ、インターハイ、ウインターカップ、全中、U15 選手権、全国ミニ）、JBA 審判委員会、JBA 職員、オブザーバー（ラグビーフットボール協会技術委員会審判部門長）

※代理、兼務、ビデオ参加を含む



【主な内容・質問】

1. 挨拶

JBA 事務総長 田中 道博 挨拶要旨

- 日本の審判、指導者のライセンス取得者の増加にはFIBAからも高い評価を受けております。日頃から様々な事業にご協力いただきこの場を借りて厚く御礼申し上げます。
- 今年度の取り組みとして大きなものは3つあります。一つはJBAとして暴力暴言根絶のためにインテグリティ委員会を立ち上げたこと。引き続き都道府県でもご理解・ご協力をお願い致します。
- 二つ目は審判インストラクター制度を開始したこと。現在約2,600名に登録いただいています。審判員の普及に非常に重要な役割であり、審判登録者の10%現在であれば5,500名の資格取得を目指したい。特に草の根の3級インストラクターが普及することが全国的な審判活動の情報伝達体制の強化に繋がります。
- 三つめは漆間大吾氏と2人目のプロ審判員契約を締結したこと。コート内外の取り組みを通じて審判員のあるべき姿を示してもらいたい。また、U18の審判員が年々増えており、1月末で1,634名。現在U18で取得できるB級が最上位だが、将来そういった若い方の中からプロ審判員を目指してもらえたら大変喜ばしいこと。
- 先月開催されたFIBA競技委員会で積極的な女性活用が提言された。プレーヤーの登録者の男女比は1:1。女性審判は10,988名で2割弱。コーチも含め、女性が継続的にバスケットボールにかかわって活動できる環境をJBAとして整えていきたい。
- パートナー協定を結んでいるドイツ協会主催の男性ゲームのシュバイツァーカップに今年4月の大会は女性FIBA審判員を2名派遣したいと考えています。トップレベルでも女性が活躍する機会をJBAとしても設けていきたい。
- 2020年はオリンピックイヤー。競技において審判員が果たす役割は大きく、オリンピックを通じて審判員にも注目が集まる事と思います。これからも皆様のご協力が不可欠です。今後とも何卒ご協力賜りますようお願い致します。

BLG競技運営部マネージャー 教野 真吾 挨拶要旨

- 日頃より様々な面でご支援いただきありがとうございます。
- おかげさまでリーグ戦はシーズン終盤まで来ています。今後リーグとして担当審判の環境を改善できるよう取り

組んでいきたい。

- 2026シーズンからはリーグのレギュレーション改変を計画しており、スケジュールも大きく変わっていくことと思いますが、引き続き審判、テーブルオフィシャルをはじめ都道府県協会の皆様の協力をいただけますようお願い致します。

WJBL 事業部長 長崎 俊也 挨拶要旨

- 皆様のおかげで昨年20周年を迎え、今季は21年目のシーズンを迎えています。
- 普段からリーグ興行にご協力いただき心より感謝いたします。
- リーグとして5人制、3人制両方の代表強化に取り組んでいますが、審判員の皆様が都道府県での試合から支えてくださるからこそプレーヤーの成長があります。
- 出来るだけ多くの都道府県で試合が開催できるよう、今後ともご協力をお願い致します。

JBA審判委員会 委員長 宇田川 貴生 挨拶要旨

- 新型コロナウイルス対策として感染予防へのご協力をお願い致します。今回はウェブ中継での出席も案内させていただきました。
- 2021年度に向けて様々な改革を進めているため、今回の会議は説明、資料が多くなりますがご理解をよろしくお願いします。
- 全国審判長会議は決議機関ではありません。従って、2月22日に開催された第3回審判委員会での決議事項を報告としてお伝えすることとなりますが、ご意見ご質問は遠慮なくお願いします。
- 6～8月に各ブロックで開催するブロック連携会議でも直接皆さんの様々なご意見をお聞かせください。

2. 2019年度事業報告及び2020年度事業計画

(1) 2019年度審判事業報告【資料②P4-10、資料③P1-13 参照】

- ①JBA 事業報告
- ②JBA 管轄ブロック事業報告
- ③都道府県事業報告
- ④JBA 講師派遣報告
- ⑤海外派遣報告

(2) 2020年度審判事業計画【資料②P11-13、資料③P14-15 参照】

- ①JBA 事業計画
- ②JBA 管轄ブロック事業計画

(3) 審判委員会改選

- ①部会員 2020年4月（事務総長決裁）
- ②委員 2020年7月（JBA 理事会決裁）

3. 各種ライセンスに関して

(1) 審判および審判登録者状況【資料②P14、資料③P16-17 参照】

(2) B～E級ライセンス【資料②P15-16、資料③P18-28（P19-21 非公開）参照】

①2020年度変更点

- 3) セカンドユニフォームに入れる「REFEREE」のワンポイントは、審判長による多数決の結果、背面に入れることを決定

<ご意見・質問>

- ・フィットネステストを理由にB級を更新されない方が多いのでトップリーグ担当以外のクリア基準が緩和されることは歓迎。
- ・U18年代の審判ライセンス取得希望者は増えており、ライセンスの取得方法などについては県協会のウェブサイトなどでの広報を強化していく予定。

・U18 年代の審判員が大会参加するにあたり、特に部活動に所属していない方が怪我をした場合の保険の有無が保護者としては気になるので JBA から保険の適用対象について説明してもらえると良いのではないかと。

→中体連、高体連の主催大会は大会としてスポーツ安全保険に加入することになる。今回の統一書式（保護者承諾書兼依頼書）は負傷を含めて保護者が責任を持つことを明記してもらい責任の所在を明らかにする。今後運用する上で書式の細かな修正が必要になった場合、JBA までお知らせいただきたい。

・セカンドユニフォームにはワッペンを着用するのか。また、ハーフパンツの下にタイツを履くのは問題ないか。

→胸に審判ワッペンを着用していただきます。タイツの着用は問題ありません。

②2021 年度変更点

<ご意見・質問>

・B 級は毎年、C・D 級は 2 年に一回更新についても実技審査という原案ですが、基準をクリアしないとライセンスを更新できないということか。

→どこまで厳しく点数をつけるかは要検討だが、認定のための点数基準は定めていく予定。

(3) A 級ライセンス【資料②P20 参照】

- ①ランキング表作成
- ②A 級降格制度
- ③A 級への情報提供
- ④ブロック IR 派遣予算措置

(4) S 級ライセンス（トップリーグ担当審判）

- ①BLG【資料②P21-24 参照】
- ②暴排宣言対応【資料②P25 参照】
- ③BLG チャレンジ【資料②P26 参照】
- ④Wリーグ【資料②P27 参照】
- ⑤2020-21 シーズントップリーグ評価基準【資料②P28 参照】

(5) 今後導入検討事案(今後の検討課題も含む)【資料②P29 参照】

- ①定年制
- ②T 級をリタイアした 1 級 IR の全国リーグへの派遣
- ③全国統一各種評価表の作成
- ④今後整備すべきガイドラインおよび教本（競技規則、審判情報の共有）

4. 2019 年度インテグリティに関して【資料②P30-40 参照】

(1) 実施内容および結果

<ご意見・質問>

・県内でもコーチ、チームと大会前に資料を共有するなど暴力暴言廃絶の方向を共有しながらすすめている。

5. 全国大会の在り方【資料②P41、資料③P35-37 参照】

(1) 2020 年度以降の全国大会における各県派遣およびブロック派遣・本部審判基準統一について

<全国大会担当者から>

- インターハイ
今年度からコート研修、モデルゲームを廃止。1 回戦から 3PO で実施し、B 級審判員がファイナルを担当した。A 級の活躍も増えていると思う。都道府県から派遣いただく審判員のモチベーションに繋がるような取り組みを検討している。
- 全中、U15 選手権

次年度の三重大会から都道府県派遣審判に中体連所属の縛りが無くなってライセンスでの派遣となる。マンツーマンペナルティの処置が変更になっているので確認して参加していただけるようお願いいたします。

- 国体

今年度から1回戦から全て3POでの開催となった。国体はブロックからの派遣と本部審判での開催となりますので今年度は九州ブロックのご協力をお願い致します。

- インカレ

今年度の大会から道府県から1名、関東・東京は従来通り。敗者戦の開催が無く、試合数が少なくなり2020年度から各都道府県から1名ずつ派遣いただき不足する審判員は関東ブロックで担当。

- ウインターカップ

最初の2日間は試合数が多く、次年度も12月23日、24日はゲーム数が多いので都道府県から派遣いただく審判員は最初の二日間に予定を多く出していただきたい。25日以降はゲーム数が少なくなる。女子の試合が先に開催されるため女性レフェリーは早い時間帯の試合に担当できるように都道府県で前泊の手配をするなど協力いただけるとありがたいです。

- 社会人チャンピオンシップ、社会人選手権

来年度チャンピオンシップは大会方式が変わり全てトーナメントでの開催となり、ブロックから2名派遣でお願いします。社会人選手権はB級以上の審判員を各都道府県1名派遣していただけますようお願いいたします。地域リーグへの協力も引き続きよろしくお願い致します。

- 全国ミニ

次年度について各都道府県から1名ずつ+開催の東京都から1名追加計48名の派遣を依頼予定。決まり次第お知らせします。

6. 都道府県事案報告【資料②P42、資料③P38-43 参照】

(1) 試合の勝敗にかかわる重要な事案

(2) 都道府県および連盟審判委員会における審判指導規制の作成について

7. 2021-23 シーズン FIBA 推薦について【資料②P43 参照】

(1) FIBA 審判員選考スケジュール

(2) FIBA 情報

8. その他【資料②P44 参照】

(1) 各種 3x3 大会への協力をお願い

(2) ブロック・都道府県 JBA 提出統一様式、ポータルサイトでの共有について

9. テクニカル部会より【資料②P48 参照】

(1) ルールブックについて

①2020年度ルール変更について【資料③P44-45】

②マンツーマンペナルティの処置変更について【資料③P46-48】

③2021年度からU12ルールブックを統合について

(2) プレコーリング・ガイドライン 20200401 について【資料③P49-65】

10. 閉会

定年のため今シーズン限りでT級審判インストラクターを退任される関口知之副委員長から、また今年度で退任するブロック長、都道府県審判長の紹介と代表して高知県武内審判長から挨拶があった。

- 関口副委員長挨拶

JBAに様々な形で関わらせていただいてとても充実した審判人生を送らせていただいた。感謝の気持ちでいっぱいです。最後まで委員としてT級インストラクターとしてしっかり努めたいと思います。これからも1級インストラクターとして全国にお邪魔することになるかもしれませんのでその時は色々なお話をさせていただければ

と思います。

- 武内審判長挨拶

こうして審判長会議に出席することが自分自身の勉強にもなりました。審判長は交代となりますが、今後も県内の審判活動の普及に務めさせていただきます。今までありがとうございました。



<配布資料>

【資料①】日程表

【資料②】会議資料（投影用）

【資料③】別資料集